

2023
ズバリ! 的中



世界史

京都大学

8世紀から15世紀末のイベリア半島史に関する
論述問題がズバリ的中!

入試問題

前期日程
Ⅲ

河合塾

大学受験科 基礎シリーズ
世界史 論述
第9・10講 [補]

Ⅲ 世界史B問題

(20点)

イベリア半島にはキリスト教世界とイスラーム世界の境域としての長い歴史がある。イベリア半島におけるイスラーム勢力の支配領域をアンダルスと呼ぶ。アンダルスの成立から消滅に至るまでのこの半島における諸国家の興亡と、それに伴う宗教的状况の変化および文化の移転について、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

第9・10講

[補] イベリア半島の歴史

ある地域の歴史をたどると、そこに世界史の大きな流れが影を落としていることがある。イベリア半島の場合もその例外ではない。この地域には古来さまざまな民族が訪れ、多様な文化の足跡を残した。とりわけヨーロッパやアフリカの諸勢力はこの地域にきわめて大きな影響を及ぼしている。このような広い視野のもとでながめるとき、紀元前3世紀から紀元15世紀末にいたるイベリア半島の歴史はどのように展開したのだろうか。その経過について450字以内で述べよ。なお、下に示した語句を一度は用い、使用した語句に必ず下線を付け。

カステリア王国 カール大帝 カルタゴ グラナダ
コルドバ 属州 西ゴート ムラービト朝